

# 知事記者会見の概要

日 時：令和7年2月5日（水） 10:00～10:23

場 所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 発表事項

- (1) 山形県・尾花沢市合同冬期防災訓練の実施について
- (2) 水稻新品種「山形142号」の採用について

### 代表質問

- (1) 埼玉県道路陥没事故を受けて
- (2) JR米坂線の復旧について

### フリー質問

- (1) 発表事項2に関連して
- (2) 大雪への警戒について

<幹事社：朝日・荘日・NHK>

## ☆報告事項

### 知事

皆さん、おはようございます。立春を過ぎたんですけれども、今日は雪が降り続けております。山形地方気象台によりますと、この冬一番の強い寒気が流れ込み、本日 5 日から 8 日ごろまで大雪となって積雪が増える恐れがあるということでもあります。

県では、昨日 4 日に、「大雪に係る警戒対策連絡会議」を開催いたしました。被害状況の把握や速やかな応急対応など、大雪に関する対応について確認を行うとともに、市町村や関係機関と連携して県民の皆様に対する注意喚起の徹底を図るよう、全部局に伝達したところであります。

大雪や吹雪による事故や立往生などの交通障害の発生が心配されます。県民の皆様には最新の気象情報や交通情報に十分ご注意ください、不要不急の外出を控えていただくようお願いいたします。自動車を運転する場合は時間に余裕を持って行動し、より慎重な運転を心がけていただきたいと思います。

また、各地で雪下ろしや除雪作業中の事故が発生しております。昨日 4 日の 10 時現在で、1 名の方がお亡くなりになっておられます。37 名の方が重軽傷を負われております。雪下ろしや除雪作業の際には、1 人では行わないということ、命綱、ヘルメットを着用するなどの安全対策を行っていただくとともに、屋根からの落雪にも十分注意してくださるようお願いいたします。

次にクマの出没であります。2 月 1 日に新庄市中心部にクマが出没するという事案が発生しました。県では最上総合支庁の職員を新庄市の対策本部に派遣し、情報収集や助言を行ったところです。クマは翌日に捕獲されまして、夜を徹して対応に当たっていただいた新庄市、警察、消防、猟友会など関係の皆様には感謝を申し上げます。

また、2 月 3 日には、酒田市内でクマが民家の小屋に入り込むという事案が発生しました。その後逃げ出して発見に至っていないということでもあります。周囲にお住まいの皆さまには十分注意してくださいますようお願いいたします。

本来冬眠に入っているといわれている時期なんですけれども、昨年 12 月からクマの出没が例年以上に相次いでおり、大変懸念しているところです。県民の皆様には冬でもクマは出没するということを認識していただき、敷地内に生ごみを放置しないことや、市街地でクマを目撃した際は建物内に避難するなど、お一人おひとりが身を守る行動を取っていただきますようお願いいたします。

## ☆発表事項

### 知事

ここで私から発表 2 点ございます。

1 点目は令和 6 年度山形県・尾花沢市合同冬期防災訓練の実施についてであります。冬期の防災訓練としては初めてとなる「山形県・尾花沢市合同冬季防災訓練」を、2 月 9 日、今度の日曜日に実施する予定です。これは能登半島地震をはじめとする積雪寒冷期の災害発生を踏ま

え、冬期の災害時における防災関係機関相互の協力を図るとともに、県民の皆様の冬期防災に対する理解と防災意識の高揚を図ることを目的とするものです。

この訓練では、地域住民が参加する寒冷下での避難所設置運営や、消防団と自主防災組織が行う避難通路の確保、防災関係機関が連携して行う雪崩からの救助など、冬場の特性を捉えた訓練を実施することとしており、私も訓練統監として出席する予定です。

本県で冬期に大きな地震が発生した場合、屋根からの落雪による避難路の閉塞や、雪崩による救助・救援活動の遅れ、寒冷化での避難生活などが想定されます。

冬期防災訓練を通して、積雪寒冷期における行政と関係機関及び、地域住民が一体となった更なる防災対策の充実・強化に取り組んでまいりたいと考えております。

2点目はですね、お米であります。水稻新品種「山形 142 号」の採用について申し上げます。

生産者から高温に強い水稻新品種の導入が強く求められてきました。それで、これまで検討を重ねてきました「山形 142 号」について、県の奨励する品種として採用することといたしました。

「山形 142 号」は、県の水田農業研究所で、平成 24 年に「雪若丸」を母として交配した品種です。高温に強く、白く大粒で食味に優れ、収量性が高いということが特長です。

令和 7 年度は、栽培の現地試験を拡大するとともに、生産・流通販売関係者からのご意見も踏まえ、令和 9 年デビューに向けて振興方針を検討することとしております。

なお、ネーミングにつきましては、県内の小・中学生を中心に募集しますので、多くの皆様からアイデアをお寄せいただければと思っております。詳細につきましては、後ほど農林水産部から説明をいたします。

私からは以上です。

#### ☆代表質問

##### 記者

幹事社の朝日新聞、大谷と申します。よろしくお願いたします。

まず、質問ですけども、埼玉県八潮市で起きた道路の大規模陥没事故はですね、地下の下水道管の破損が最初の原因というふうに言われてますけども、こういう下水道管などのインフラの老朽化対策っていうのは、埼玉に限らず全国で大きな課題になっているんだと思います。

そこで、この件に対する知事の受け止めとですね、今後の対策等についてですね、どういった取り組みが必要になるのかというのを教えていただければと思います。よろしくお願いたします。

##### 知事

はい。1月28日の事故発生以降、連日テレビなどで大きく報道されておまして、私もドライバーの方が助かってくれれば良いなというような思いで、最初、注視しておりました。

だんだんとですね、県民生活への影響の大きさというようなことも、クローズアップされてきて、今回の事故を見て、下水管などの見えないインフラが破損したことで、県民生活に

多大な影響を与えるということを改めて感じているところであります。

事故が発生した埼玉県八潮市の下水道の管は、埼玉県が管理する流域下水道のもので、処理人口約 143 万人、1 日の汚水処理量が約 50 万立方メートルと、山形県が管理する流域下水道に比べれば、かなり大きい規模のもの聞いております。

今回の事故の後、国土交通省から緊急点検の要請が全都道府県に出されました。山形県では、今回の事故を受け、月 1 回実施している路面から異常を確認する巡視点検を、前倒しで、2 月 3 日までに完了し、現時点では異常がないということを確認したところです。

このほか、県では、流域下水道について、管路点検として、年 1 回の専門業者によるマンホール内部と下水管入り口付近の点検を、また管路調査としまして、管内にテレビカメラを入れて、腐食の恐れが大きい箇所については、5 年に 1 回の調査、それ以外の区間については、おおむね 10 年で、全区間の下水管内部の劣化具合の調査が完了するよう取り組んでいるところです。

今回の事故は、全国どこで起きてもおかしくない事故でありますので、山形県としまして、点検と調査を行い、適切な修繕に取り組みながら、事故の防止に努めてまいります。加えて、市町村に対して、県の取組みを情報提供しながら、管路保全に適切に、かつ、しっかりと取り組むよう助言してまいります。

記者

次の質問ですけれども、1 月 22 日にですね、(JR) 米坂線の件なんですけれども。関係自治体のトップがですね、話し合う会議が開かれて、県からも副知事が出席されてると思うんですけども、この会議を踏まえてですね。今後、鉄道復旧に向けた次のステップとして、どういう展開を想定しているのか、知事のお考えをお聞きしたいと思います。よろしくお願いいたします。

知事

はい。それではお答えいたします。

先月、1 月 22 日に置賜地域の全ての市長、町長の皆様にお集まりいただき、副知事を座長として、米坂線復旧に向けての意見交換を行う場を設けたところです。

出席された皆さまからは、「基本的には JR による運営を求める考えに変わりはないが、上下分離や三セクも含めて具体的に検討を進めていく必要がある」とか、「毎年の運営費用に対する負担が可能かどうか精査が必要」、また、「政府の支援拡充が不可欠である」とか、「山岳区間の維持管理が課題である」、そして、「資材高騰で復旧費用も増える恐れがある」、さらには「地元が覚悟を持って利用拡大に取り組む必要がある」といったことなど、さまざまなご意見をいただいたところであります。

会議のまとめとして、県がこれまでも申し上げてきましたように、JR 東日本による運営を求めつつも、議論を前に進めるべく、鉄道での復旧を第一の目標として、上下分離や三セク移管も含めて具体的に検討を行っていくという方向性を、皆様と確認をすることができたと副知事から聞いております。

こうした会議の結果を踏まえて、次のステップとしましては、今後は、各市町の皆様とより

具体的な検討を進めていく必要があると考えております。併せまして、JR東日本や政府に対し、新潟県や被災から復旧した只見線のある福島県とも連携し、沿線が一丸となりながら、様々な機会を捉えて要望や提案をしていくことも重要であると考えております。

さらに、只見線などの復旧事例を見ますと、地域において鉄路復旧に向けた熱意を示していくことも大変大事であります。これはやはり、地域の皆さんでしっかりと米坂線を利用していくということが大前提となるわけです。昨年8月には、新潟県や沿線市町村と一緒に米坂線復活絆まつりを開催したところではありますが、地域が主体的に、米坂線の利用拡大や復旧に向けた機運醸成の取組みを行っていくことが何より重要であると考えております。会議の場でも副知事からその旨申し上げたということでもあります。

引き続き、JR東日本、新潟県や関係市町村と話し合いを重ね、米坂線の復旧に向けた着実な進展が図られるようしっかり取り組んでまいりたいと考えております。

#### ☆フリー質問

記者

河北新報の奥島です。よろしくお願ひします。

先ほど発表があった山形142号についてなんですが、まず、生育の特性など「はえぬき」と比べて記載されてますけども、はえぬきの後継品種という位置付けでよろしかったでしょうか。

知事

後継品種になるのかどうかって候補ではあるんですけども、具体的なところは、詳細について後ほど農林（水産）部が説明するので、その中で聞いていただければと思っています。

記者

わかりました。今回の品種、高温耐性ですとか、あと収量ですね、優れるということですけども、改めて、この重要性といいますか、期待する部分を教えていただけますでしょうか。

知事

はい。やはり、温暖化対策と言いますか、そういったことの一環であると思います。水稻というのは、大変、農業の中で大きな位置を占めておりますし、これまで通りでは立ち行かなくなるというようなことも考えられますので、しっかりと高温に強い作物をですね、この場合は水稻ですけども、開発していくということは大きな課題であるというふうに思っておりますので、生産者の皆様からもニーズがあったということで、県としても、この142号についてしっかりと取り組んで、生産していただける方向で取り組んでいきたいというふうに思っています。

私も、試食という形で、食べてみましたけども、最初に思ったのは「白いな」ということであります。白くて、美味しいというお米でありますので、収量性も高いというのは非常に魅力的だと思いますし、何よりも高温に強いということで、やはり水稻の生産者にとって、大変喜ばれるものではないかなというふうに思っています。

記者

知事が就任されてから、つや姫ですとか、雪若丸ですとか、新しい品種どんどん生まれてますが、今回の142号については、県民の方ですとか、消費者の方に、どういうふうな存在というか、どういうふうな品種に育てていきたいですか。

知事

そうですね、つや姫というのはですね、非常に尖った部分でありまして、最初からブランド狙いでありました。だから、適地マップを作って、適地以外の所では作っていただかないというようなことで、いろんな市町村に行くと、もっと作りたいというお声をたくさん聞いたんですけども、ちょっと我慢してくださいみたいなことを申し上げてきましたけど、これについては、そういう制限というものはですね、つや姫ほど強くないと言いますか、雪若丸もある程度制限があるんですけども、142号については、そういった制限があるのかどうか、ちょっと私も承知していないんですけども、幅広く生産者の皆様に、生産していただけるようなお米は大事ななというふうに思っています。

記者

NHKの岡野です。よろしくお願ひします。

先ほど、冒頭でおっしゃられた大雪に関してなんですけれども、今日以降ですね、この冬一番の寒気が流れ込んで、雪に警戒が必要だと思うんですが、先ほど、一人で作業しないことであるとか、命綱を付けてほしいということをおっしゃったんですけども、それ以外で県民が特にこういうふうなことを気を付けてもらいたいとかですね、立ち往生とかも過去には県内でありましたが、そのあたり含めて知事からもう一度注意喚起をお願いできればと思います。

知事

はい。雪下ろしとか除雪作業中の事故というようなことで、大変懸念をしているわけなんですけれども、今日からですね、8日までずっと雪が降り続くという、そういう予報が出ておりますので、本当にお一人お一人がですね、不要不急の外出を控えていただくとか、車を運転される場合には、時間に余裕を持って行動していただくとか、あと慎重な運転というようなことで、やはりそういう心構えを持って、事故などが起きないように、また車がですね、長い行列ができて滞って、交通渋滞などというふうなことになるように気を付けていただければなというふうに思っています。寒い時期でありますので、体調管理ということも十分にお気を付けいただきたいなというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。もう1点。先ほど質問もあった山形142号なんですけれども、今、山形と言えば、やはりつや姫が全国的に、世界でも知っている方もたくさんいらっしゃるんですが、そのあたりですね、次の新たなブランド米になってほしいというのは皆さん、県としても思っていらっしゃると思うんですが、知事としてはそのあたりの期待感っていうのをもう一

言、お願いできますでしょうか。

知事

この142号にブランド米として期待するのかどうかなんですけども、これから、令和7年度は栽培の現地試験を拡大するというので、生産、流通、販売の関係者から、ご意見もいただくというような段階でありますので、これはもうつや姫以上のブランド米にするとかね、そういう目的を持ったお米なのかどうか、私の感覚ではそうではないという、つや姫は尖ったブランド米ってなってるんですけど、多分収量性が高いというようなことも考えれば、やはり高温に強い品種として多く生産してもらえるような、一気にはいきませんけれども、そういう目的のものなのかなというふうに、私は捉えていたんですけども、詳細はちょっと農林水産部にですね、後ほどお聞きいただきたいと思います。私も確認してみます。